

特別支援教育

1 目標

障害をもつ子どもの能力や特性を把握して、その可能性を最大限に伸ばし、社会生活に参加していくことのできる力を育てる。

2 努力点

(1) 一人一人の児童の実態に応じた指導や方法を工夫する。

- ・日常生活の指導
- ・生活単元学習
- ・教科別領域別の指導
- ・遊びの指導
- ・自立活動

(2) 学校全体で特別支援教育に取り組む。

- ・全職員が研修する機会を持ち、認識を深め共通理解をもつ。
- ・特別支援教育推進のため、校内に特別支援教育委員会を設置し、その運営や推進役として特別支援教育コーディネーターを置く。
- ・軽度発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症）の特性について理解を深める。
- ・個別の指導計画を作成し、適切な支援を行う。
- ・学校便り等を通して、保護者の理解を深める。
- ・教材教具の整備充実に努める。
- ・全児童が、なかよし学級についての理解を深めるようにする。
- ・交流学級との結びつきを大切にし、友達と仲良く生活ができる態度を育てる。

(3) 特別支援教育について、保護者や地域の人たちに正しく理解してもらうための啓発をする。

- ・参観日
- ・懇談会
- ・講演会
- ・松江だより
- など

(4) 学校便り・連絡帳などにより保護者との連携を密にし、信頼と協力関係がより深まるように努力する。

(5) なかよし学級の児童の共通理解を図るため、公開授業や交流会をもつ。

3 具体的方法

- ・日常生活の指導

基本的な生活習慣を身につけ、日常生活の流れにそった活動を通して自立を促す。

- ・自立活動の指導

障害による学習または、生活上の困難を改善・克服するための指導を行う。

- ・生活単元学習の指導

社会生活の適応性を養うため、一連の目的活動を組織し総合的に学習をさせる。

- ・遊びの指導

遊びの経験が不足しているため、遊びの指導をし友達と楽しく過ごせるようにする。

- ・教科別の指導

前述の学習内容のかたよりを避けるため、学習に系統性を持たせ反復練習を中心に学習をさせる。

- ・領域別の指導

道徳では、子どもの実態に合わせて他の教科と合わせた形で学習させる。また、特別活動は、効果的に交流させる。自立は、子どもの障害の程度に合わせて指導する。

- ・通常学級での指導

めあてや活動内容の提示の仕方を工夫する。